

■今年の中国での春節（旧正月）は例年よりも遅めの2月16日から始まりました。長ければ9連休という大型休暇でこの間の移動人員は9億人とも言われますが、想像もつかない規模です。現政権下での日中両国の関係が思わしくないといっても、2012年の野田政権下での尖閣列島の国有化を巡る関係悪化の際に天津市にいた筆者はこれまでにない緊張感を味わい、中国人の友人の厚意で事なきを得た経験があります。さて、この時期、中国映画界でもお正月映画があるようで、外電から翻訳の上紹介することにしましょう。「中国政府支援のホリデースリラー映画は、あまり知られていないスパイ事件の詳細を暴露することになるのだろうか？」と題された、「『Scare Out（惊蛰无声）』は人民解放軍のジェット機機密漏洩を描いており、ステルス戦闘機技術に関する実話に基づいているのではないかと憶測もある」とされています。「scare out」は、「怖がらせる・度肝を抜く」の意がそうです。本文は次の通りです。

「中国で最も期待されている春節休暇映画の一つに、著名な監督、豪華キャスト、そして異色のクリエイティブコンサルタントである中国最高峰の対諜報機関が登場する。2月17日に中国本土の映画館で公開される『スケア・アウト』は、国家安全部が直接監修する初の映画で、国家安全部は、本作に技術指導を行い、脚本は実際の事件に基づいていると述べている。数々の賞を受賞したチャン・イーモウ（張芸謀）監督による本作は、中国における現代のスパイ活動に焦点を当て、新型戦闘機に関する機密漏洩の捜査を描く。中国政府はこのような機密漏洩を公表したり、認めたりすることは滅多にないが本作は知られざるスパイ事件の詳細を明らかにする可能性がある。

1月29日、同映画の配給会社は「スパイたち」と題したプロモーションビデオを公開した。ビデオの中で、張芸謀は「スケア・アウト」は現代のスパイ活動を再現し、技術的な要素も取り入れていると述べた。

『（国家安全部の）指導の下、このような題材に取り組むのは初めてです。非常にリアルに撮影し、国家安全部の職員から多くの技術的指導を受けました』と張芸謀は語る。プロモーションビデオには、国家安全部の職員が俳優たちにターゲットの追跡方法を指導する舞台裏の映像が収録され、職員の映像は、身元を隠すためモザイク加工されている。

この作品には、国家安全保障担当者が俳優たちに、繁華街で容疑者を取り締まる方法を指導する様子も映される。『近年、国防부는一般市民に寄り添い、中国国民にスパイへの警戒を呼び掛けたいと考えている。一般市民もスパイに利用される危険にさらされている可能性がある』と張芸謀は述べた。このプロモーション動画は、中

国の機密研究機関に勤務し、スパイ活動で死刑判決を受けたエンジニアの実際の事件から始まる。この動画にはモザイク加工が施された実際の尋問映像が収録されており、国防省は先月末、ソーシャルメディア上でこの事実を確認できた。アナリストや海外メディアは、この映像が昨年3月に国防省が発表したスパイ事件に関連しているのではないかと推測している。国防省によると、国内の研究機関の技師補佐であった劉という名の男性が、国家機密を違法にコピーし、外国の情報機関に売却したとして逮捕され、その後、死刑判決を受けました。国防省によると、劉は昇進を認められなかったことに憤慨していたといい、退職前に大量の機密資料を密かにコピーし、保有していたのです。これは、復讐と脅迫に利用しようとしたためだというものだ。（中略）

北京はこの映画を通じて、観客に国家安全保障について啓蒙することを目指している。国営中央テレビ（CCTV）は先月、この映画が対スパイ活動を『初めて』スクリーンに取り上げ、この問題への意識を高めたと報じた。また、国営新華社通信は先月、ソーシャルメディアで『従来のスパイ作品とは異なり、この映画は現代の秘密戦線に焦点を当てており、“対スパイ活動と対潜入”は現代の避けられない課題となっており、私たち一人ひとりに密接に関連している』と述べている」

中国の覇権主義は建国100周年に当たる2049年までに「社会主義現代化強国」の実現を目指し、また2027年の台湾侵攻・統一化説も伝わってきます。こうした環境の中で、深刻な経済の落ち込みの只中にあり、まさに国威発揚の作品の出現は不気味です。このところ精彩を欠く張芸謀が党の御用監督にまで墮してしまったのか、本来の映画作品とは異なる意味で注目すべき作品かもしれません。

■2026年2月15日にロバート・デュヴァル氏が亡くなりました。日本の新聞では、写真こそ入っているものの19行のベタ生地扱いというのは実に悲しいものです。外電からその死のニュースを見てみます。

「『ゴッドファーザー』『地獄の黙示録』で主演を務めた俳優ロバート・デュヴァル氏が95歳で死去 - 60年にわたるキャリアの中で、デュヴァル氏は1983年に『テンダー・マシー（ブルース・ベレスフォード監督）』でアカデミー主演男優賞を受賞し、その後6回ノミネートされました」

「『ゴッドファーザー』で巧みなマフィア弁護士を演じ、『地獄の黙示録』ではサーフィン狂の大佐を演じて観客を魅了したロバート・デュヴァルが、95歳で亡くなりました。日曜日、妻のルシアナ・デュヴァルが彼の訃報を伝え、『昨日、私たちは最愛の夫、大切な友人、そして現代最高の俳優の一人である彼に別れを告げまし

た。ボブは自宅で安らかに息を引き取りました』と彼女は綴っています。

率直な物言いでも多作、しかし派手さを嫌うデュバルは、アカデミー賞主演男優賞を受賞し、他に6回ノミネートされました。60年にわたるキャリアの中で、主演と助演の両方で輝きを放ち、最終的には監督にもなった。『世界にとって、彼はアカデミー賞受賞俳優であり、監督であり、ストーリーテラーでした。私にとって、彼はまさに全てでした』とルシアナ・デュヴァルは語った。『彼の仕事への情熱は、登場人物への深い愛情、素晴らしい食事、そして人前で話すことと並ぶものはありませんでした』と。

デュヴァルは1983年、『テンダー・マーシーズ』で落ちぶれたカントリーシンガーを演じ、アカデミー賞を受賞しました。しかし、彼の最も記憶に残る役柄には、『ゴッドファーザー』の最初の2作で演じた物腰柔らかで忠実なマフィアの顧問トム・ハーゲンや、フランシス・フォード・コッポラ監督の1979年のベトナム戦争を描いた大作『地獄の黙示録』で演じた狂気のウィリアム・キルゴア中佐も含まれます。後者はデュバルにオスカーノミネートをもたらし、長年脇役を演じてきた彼を真のスターへと押し上げました。このセリフは、今や映画史に残る名セリフの一つとなっています。『朝のナパーム弾の匂いが大好きなんだ』。上半身裸で大きな黒いカウボーイハットをかぶった好戦的なデュバルは、サーフィンに行きたい海岸沿いの樹木が低空飛行するアメリカ軍機の爆撃を受ける中、物思いにふけります。このキャラクターは当初、さらに過激なキャラクターとして構想され、名前はカーネージ大佐になる予定だったのですが、デュバルはそれを控えめにし、演技への緻密なアプローチを見せた。『しっかり勉強したよ』と、デュバルは2015年にベテラントークショー司会者のラリー・キングに語りました。『リサーチもしたんだ』と。デュバルはハリウッドでは遅咲きの俳優でした。1962年にハーパー・リーの小説『アラバマ物語』を映画化した作品で謎めいた隠遁者ラドリーを演じ、ブレイクを果たした時はすでに31歳でした。その後、彼は数々の役を演じました。『ネットワーク』（1976年）では威圧的な企業幹部、『グレート・サンティーニ』（1979年）では家族を兵士のように扱う海兵隊士官を演じ、そして『テンダー・マーシーズ』では主演を務めました。しかし、デュヴァルはよく、お気に入りの役は1989年のテレビミニシリーズで演じた役だと語っていました。ラリー・マクマートリーの小説を原作とした『ローンサム・ダブ』で、白髪交じりで機転の利くテキサス・レンジャーからカウボーイに転身したオーガス・マクレイを演じた役です。映画評論家のエレイン・マンシーニはかつてデュヴァルを『アメリカで最も技術的に優れ、最も多才で、最も説得力のあるスクリーン俳優』と評しました。

心から追悼の意を表します。